

独立行政法人国立病院機構
久里浜アルコール症センター

東日本大震災 こころのケアチーム派遣 第5班

平成23年4月9日(土)～14(木)

西岡直也・山本史・前園真毅・山口英世



4月9日(震災30日目)派遣1/5日

- ◆ 5:00 院長をはじめ当直職員に見送られ出発。
久里浜から大船渡までの600km弱。
- ◆ 4/8の余震影響で懸念された高速道路などのインフラ状況は50km速度規制や上り水沢IC周辺の土砂崩れなどがあった。
- ◆ ガソリンスタンドの渋滞も大船渡、陸前高田含め見られなくなっていた。



14:30 陸前高田を通過

4月9日(震災30日目)派遣1/5日

県立大船渡病院に到着(4班との合流地点)



15:15 第4班と合流。4班は継続往診でみてきた初老の女性(企死念慮からの行動がみられたことから)を説得し同伴の受診援助、任意入院へつなぐ活動中だった。

17:00~17:20 市役所にてミーティング
・市保健師と明日訪問する家庭について打ち合わせ/日曜日に開いている薬局などの情報を共有。

17:45~18:00 医療チームとのミーティング



開業医等の診療状況	
医療機関名	診療時間等
岩瀨内科医院	9:00~12:00 14:00~17:00
巖田外科・泌尿器科医院	8:30~12:00 14:00~17:00
眞羽整形外科	8:30~12:00 14:00~17:30 本曜 午前のみ
佐々木内科医院	9:00~17:00 水曜 休診
大津小児科医院	4月4日から診療再開予定
山崎内科医院 (富美興荘介護センター)	9:30~12:00 14:00~16:00
山瀬医院	9:00~16:30
地ノ森クリニック	透析医療
堀池医院	8:00~17:30
藤塚眼科医院	8:30~11:30 13:30~16:30
藤喜実診療所	田花慶緒製で診療中
吉沢診療所	(結果)
藤里診療所	診 療
えんどう消化器内科クリニック	9:00~15:00 本曜 午前のみ
いとう耳鼻科クリニック	9:00~14:30
及川皮膚科クリニック	9:00~15:30 日曜 休診
石倉クリニック	4月8日から 月~水 9:00~13:00

30日経過し、交通や医療機関も徐々に再開したなどの情報はもっぱら人が集まる場所での掲示。

4月10日(震災31日目)派遣2/5日目

- ◆ 6:50 宿泊地発 8:30 保健所にてミーティング
 - 9:00 4班より引き継ぎ・保健師からの依頼受理
- ◆ 9:47 訪問診察(4班合同にて):70歳代男性・継続ケース
- ◆ 10:35 他県医療チームDrより診察要請
 - ※リエゾン精神医療:《liaison psychiatry》
- ◆ 10:37 大船渡中学校着。他県医療・保健師チームと合同で4ケース対応。
 - ◆ ・てんかん・40代男性・継続ケースを診察・処方。
 - ◆ ・継続2ケースの情報交換
 - ◆ ・中学校近くに住む脳梗塞の疑い70代男性について情報を収集。
- ◆ 12:10 昼食
- ◆ 13:00 保健師からの診察依頼。保健所にて情報をもらう。
- ◆ 13:30 30代女性宅訪問・保健師同伴
 - /2手に分かれ、被災地担当地区巡回。
- ◆ 15:15 市役所にて、20代女性の診察。
- ◆ 17:00 市役所にてミーティング。
 - 自治医大とのケースカンファレンス



4月10日(震災31日目)派遣2/5日目



保健所でのミーティングにて、刻々と変わるニーズを汲み取り、支援が必要な方々の情報を収集。



保健師チームのローラー作戦でピックアップされたご家庭を久里浜チームで継続サポートする。



避難地の小学校、中学校を巡回。

4月11日(震災32日目)派遣3/5日目

- ◆ 6:34 宿泊地発
- ◆ 8:30 保健所にてミーティング
- ◆ 9:10 継続ケースの個別訪問:
70代女性/外出中で不在。長男より近況を聴取。
- ◆ 9:30 大船渡中巡回
 - 継続ケースの経過確認(3件)
 - 20代女性新規相談⇒自治医大医療チームへつなぐ
 - パニック障害再発ケース・20代女性:大船渡病院へつなぐ。
- ◆ 11:00 加茂神社巡回:
 - 高齢の女性3名と面談。



4月11日(震災32日目)派遣3/5日目

◆ 11:30~12:50

岩手県精神保健福祉センター長、保健所長、県保健師、こころのケアチーム(沖縄県、相模原市、児童家庭支援センター大洋)との意見交換。

◆ 12:50

◆ 市PHNより相談TEL:能代市PHNチームからあがってきたケース/78歳男性
・昨夜より急におかしな言動で近所を徘徊。大船渡中に来ているとの情報有り
⇒現地向かう。

◆ 13:50 大船渡中着。

・現地駐在の岡山県チーム及び被災地代表者へ情報収集⇒親戚が来て、引き取って行ったとのこと。

◆ 14:20 末崎中学校、ふるさとセンターを巡回。

・継続ケースの診察。50代女性。

◆ ・避難地の医療チーム及び代表者より情報収集と被災地におけるアルコール依存についてミニレクチャー。

◆ 15:30 大船渡地区公民館 巡回、
保健師チームより、新規ケースの依頼受理。

◆ 16:45 市役所にてミーティング

前班が作成したカード。

震災1か月前後まで有効に働く。現地行政機関の体制が整うのに合わせて利用を制限。

久里浜こころのケアチームです。
最近こんなことでお困りではありませんか?
なかなか寝付けない、途中で目が覚めてしまう、
気分が落ち着かない、気持ちがふさがち等
こちらまでお気軽にご相談ください。
電話 090-2635-2591 (~4/25まで)

岩手県精神保健福祉センターと こころのケアチームとの意見交換

○センター長より

- ・岩手大に医師、PSW協会へPSWの派遣を要請中。
- ・宮城県の被災地でカルト集団が活動中。
- ・チーム派遣の期間延長の希望。



○こころのケアチームより

- ・保健師ローラー作戦の評価と地元支援者の負担に対する提言
- ・20～40代の就労者に対する自殺防止支援の対策の必要性について
- ・被災した施設や在宅の障害者に対する被災地での集団生活のあり方と今後の対応策について
- ◆相談ケース数は収束傾向であるが、煩雑・重複した生活問題や心身の障害を抱えるケースの対応がより求められてきている。より質の高いケース対応やマネジメントが必要。

○保健所より

- ・地域保健師をケアマネとし、個別訪問のマンパワー不足をソーシャルワーカーなどの増強する案の提示。

4月11日(震災1カ月経過)



- ◆ 旅客船ふじ丸が港に停留し、被災地住民へお風呂と食事の提供。
- ◆ 震災1ヶ月にて、黙とうが行われた。
- ◆ この日より、瓦礫の本格的な撤去作業開始。
- ◆ 撤去作業の重機から鉄パイプが車の近くまで飛んでくるアクシデント有(車等に被害なし)
- ◆ 信号機が壊れ、道が荒れ、粉じんの中、被災地住民の作業しており交通にはより注意が必要。
- ◆ 仮設住宅の建築進む。1.5ヶ月で完成する見込み(写真は大船渡中。未崎中は着工開始)

4月12日(震災33日目)派遣4/5日目

- ◆ 6:40 宿泊地発 8:30 保健所にてミーティング
- ◆ 9:35 北小学校担当の自治医大医療チームDrより診察要請有。
- ◆ 9:40 家庭訪問:70歳代男性

- 0:05 北小学校。30代女性 パニック障害
 - ・継続ケースとの面談。
 - ・避難地の責任者と意見交換。本人たちへサービスが過度になることないよう、力を奪うことのないよう留意してほしいといった内容のコメント。
- ◆ 11:15 大船渡中学校の他県保健師チームDrより、再診察要請。
 - ・60歳代女性。当院の処方した内科薬が明日切れることからの再診要請
- ◆ 13:00 大船渡中学校着
 - ・診察。かかりつけが地元のT医院であることがわかったことから、現在M小にて臨時診察していることを文書と口頭で説明し、紹介状を渡す。本人その足で受診に行った。
- ◆ 14:00
 - ・継続及び新規要請ケースに電話連絡し、訪問日時の連絡調整や近況伺いをした。
- ◆ 14:20 松崎中学校、碁石コミュニティセンターなど巡回。
- ◆ 16:45 ミーティング Drショッピングしている可能性のあるケースの会議。18:00終了。



4月13日(震災34日目)派遣5/5日目

◆ 8:30 ミーティング

県の職員に対するこころの健康相談が保健所で開始(この日6件)

◆ 9:00 70代男性 N地区 希死念慮等での継続ケース。

4/16に娘宅へ行くこととなり、終結。



～近くの住民が血圧測定や相談を求め集まる～

- 数人の健康相談や血圧測定後に、N地区住民へ現状の医療機関情報の提供。医療機関情報一覧(4/11版)を渡す。「K医院も、もうやってるんですね。知らなかった！」など話していた。

同様な場面は多々あり、本日の朝ミーティングから配布あった現在利用できるタクシーの電話番号一覧も合わせて渡していった。

- ◆ 9:50 N公民館 40代 女性。「家族が亡くなっているが、自宅が残った。自分よりもっとひどいめにあった人もいるので、まわりには心の内が話せない」5回目の再診。

- 公民館長より「被災地でのこころのケアについて、注意することを覚えておきたい」
⇒主に再建期・中長期における注意点を「岩手県災害時こころのケアマニュアル2版」「被害者の心理状態3相性」「心的トラウマの理解とケア」などを参照に口頭説明。

4月13日(震災34日目)派遣5/5日目

- ◆ **10:30 松崎地区。40代 女性。初回家庭訪問。診察。**
 - 4/11の奥州市保健師からの紹介。
 - ASDからPTSD移行が予測され、継続診察していくこととなる。
- ◆ **11:30 熊野神社 80代 女性。継続ケース。**
 - 本日より、デイサービスへの通所再開。睡眠等問題ない。月・水・金デイサービス利用予定と確認し終結。



お花を生けたり、絵手紙を書いたり、茶道をするなどのボランティアも充実してきました(M中にて)

4月13日(震災34日目)派遣5/5日目

- ◆ 13:50 第6班と合同庁舎にて合流。各職種間の引き継ぎ
- ◆ 15:00 北小学校巡回:2ケースの相談・継続ケースの経過確認。
- ◆ 15:30 公民館 継続ケース:医療チームと母から情報収集。
- ◆ 16:00 加茂神社の巡回
世話人へ医療機関再開情報の提供と2名の経過確認。
- ◆ 16:45 ミーティング:保健師,相模原市チームとケース検討
- ◆ 18:00 保健所及び精神保健福祉センターよりこれまでの相談記録の情報提供要請有り応じる。※精神保健福祉センター主任保健師より、地域保健師から信頼を経ており、可能な範囲でのチーム派遣延長の要請を受ける。



まとめ①



- 1～4班までの支援ケースは142件。
- 第5班はその中で、継続して、相談・診察・処方・経過観察が必要な10ケースと保健師や各避難所の医療チームから携帯電話やミーティングを通じて要請のあった新規ケースについて、問題の整理・精神科的緊急性のトリアージを他職種チームで行いつつ、相談・診察・処方等を行った。
- 担当の各避難所を巡回、変化する被災者ニーズや問題の早い把握を報告するとともに（朝夕二回のミーティングで）避難所へ刻々と更新される情報の提供を行った。
- 4/13まで支援ケースは147件。
- 第6班へ10ケースの引き継ぎを行った。

まとめ その②



第5班は震災後1か月前後の派遣 幻滅期(初動期・早期)～再建期(中長期)

：生活復興への取り組み開始、一定のライフラインの確保、災害発生直後の混乱が収束する時期。

～この時期でこころのケアチームとして留意してきたこと～

- ASDからPTSDの移行期
⇒一旦終結したケースの再浮上。
- 疲労が蓄積する地元支援者(保健師など)へのより配慮した心理的関与での協働活動と自己完結型支援の徹底の重要性。
- ハイリスク者のスクリーニングと相談記録やデータ等の提供。
- アルコール関連問題や従来からの困難ケースが徐々に表面化していくことへ対応。